



自分の弱さを嘆かすにはいらぬいい気持ちです。

今まで、自分の体カや体を使って頑張る事(？)

に關して、他の女の子達よりも少しは強いの

りだったのです。ですから、あんな坂を登れな

か。た自分に驚いています。ましてや、自分が

走った道のりを、普通に走る人の三倍以上もの

時間をかけて走った(？)走った。というのはいま

りにもおこがましい感じがしますが)とあつては

ますよす情けない思いに陥つてしまっています。

実際にサイクリングをしてみても、自分に關し

てこのように情けないさを感じながら、改めて、

「サイクリングには強い体カが、ろれとどうこ

とも感じ驚いています。

走る時だけではありません。つまり、自転車

を運ぶことからすれば始まる。たれと、う恐し

い(？)事実には気づいたのです。

「あの自転車のナント重いコト、重コトの

三十キロも重くと投げ出しまつた。たらくらいの

重さの。あれを持つて、列車に乗り遅れたいよう

に走ったことがあるという話を聞いた時、何と

驚いたコトでしょう。これを持つて、来る。や

冗談はやめて下さい。と言った。いくらの驚いた

のです。

何はともあれ、今の私がサイクリングをする

にあたり、課せられる事は、体カ作りを

するコト。と「輪行を覚えるコト」でしょう。

「輪行」とは、この私が回々しくも簡単そうに

口にしていますが、部分部分の石井さん、全く分

からないのです。つまり、輪行、なととマ

も、と、う状態がサイクリング部には在籍して

いろいろです。驚くべきことです。

サイクリングという事にはいろいろは意味と価値があるのでしょうけれど、今の私には、サイクリングが前に述べたように「体作り（非常に大変なスポーツであるという）こと」と「輪行も覚えること」にのみ意識が集中してしまっています。反対に「以前の自分には甘かったのだ」ということと「自分もいすす。でもさうと除々にそれらがらむ解放さ小。本当にサイクリングを楽しむことができません」と思っています。八ヶ岳に行った時、とても大変ではあったけれど、それなりに楽しかったのですから。

秋にあちら、こちらで大学祭が催されようとしたが、私は二つの大学祭に遊びに行き、一人で

サイクリング部にも訪問（？）して、その

女子の方は「はい、はい、いますか？」と、そのくらの活動をして、というふうにくしお話を聞いてきたのですが、あんなくもちらの部にも、たまにはその場に女子部員の方がいらして、しゃべりまくって、お話を聞けなかったりで残念に思っています。でも、そこに居た私たちの話によると、一方の大学では、女子もかける頑強な走りが、マインナーであるようで、僕が入部した頃はいつも負けまわった。と笑っていらして、しゃべり方も、いろいろあった。私にとっては、感嘆とも驚異ともつかないタメ息を吐いて帰ってきたのです。

もう一方のサイクリング部では、女子はそれほどの活動は行なっていないようでしたが、それでも中には、もう何年も走っている方がいて

日帰りできるよ様に、真夜中の二時、三時に一人で出かけるられる方がいらっしやるという話をうかがった。それでも、又、私が大きくなると思っていたことは想像に難くないであろう。けれども、これらの話を聞いて、「女子でも結構立派に分かや、ていけるんだはアロなんて気がとり直し、「自分も頑張れば東工大の方たちと同じように走れるように行けるのではないかしらロなとし、う希望を持つたのです。(実は男子と同じように走ることはできない、ないかとあきらめかけていたのです。)) たった一回のサイクリングで「よし」とさげすまなければ下さい。私はマシメにそう思ったのですから。でも、これからは多分大丈夫。私が皆さんと同じように走れるようになるのは

まだ、ずっと先の事でしょう。けれども、私は私なりに頑張る、てなたいと思ひます。ご迷惑になることも多いかと思ひますが、どうぞよくお願ひ致します。皆さんと一緒に走ることを楽しみにヤンを置きます。

カーン

(十二月七日現在)

東京工業大学サイクリング部皆々様

東京女子大学一年 秋山京子

〔追伸〕

愚筆・愚文にて失礼致します